

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 9 年 9 月調査結果 - -

( 平成 1 9 年 9 月 2 8 日 )

調査期間：平成 1 9 年 9 月 1 3 日 ~ 2 0 日

調査対象：全国の 4 0 7 商工会議所が 2 5 7 8 業種組合などにヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 7 8 製造業 6 1 6 卸売業 2 3 5  
小売業 7 3 6 サービス業 6 1 3

調査項目：今月の業況・売上・採算などについての状況 ( D I 値を集計 )  
および、業界として当面する問題など

D I 値 ( 景況判断指数 ) について

D I 値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

**業況DIは2カ月ぶりに悪化、仕入単価DIは悪化に歯止めかからず**

9月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（32.0）よりマイナス幅が1.6ポイント拡大して33.6となり、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

産業別の業況DIは、卸売でマイナス幅が縮小したものの、他の4業種で拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、各業種から業況好調、残暑の好影響などによる売上増加、先行き期待という声が寄せられている一方、業況低迷、仕入コストの上昇による採算悪化、残暑の悪影響などによる売上減少などを訴える声も聞かれる。

【建設業】からは、「売上は前年同月と比べて増加した」（建築工事）との声がある一方、「相変わらず厳しい業況が続いている」（一般工事）、「絶対的な仕事量が不足している」（管工事）、「小規模建設業者が不況を脱出するための良策はないものか。将来に不安を感じる」（土木工事）との声が寄せられている。

【製造業】からは、「輸出は、東南アジア・韓国・欧州向けが堅調。全体としてほぼ前年並に推移している」（金物類製造）との声がある一方、「消費者の購買意欲が減退している」（パン・菓子製造）、「市内の基幹産業であるにもかかわらず、業況は非常に厳しい。需要が伸びない」（家具製造）との声も寄せられている。

【卸売業】からは、「残暑の好影響により、夏物商品の売上が増加した」（衣服・日用品卸売）との声がある一方、「燃料費の高騰が続いており、配送コストが増加した」（食料・飲料卸売）、「仕入れ単価が上昇している。その反面、販売価格に転嫁できない」（農畜産水産物卸売）との声も寄せられている。

【小売業】からは、「衣料品や食料品の売上が増加傾向にある」（その他の小売）との声がある一方、「極度の暑さのため客足が遠のき、売上が5%程度落ち込んでしまった。中国産ウナギがまったく売れなくなり、鮮魚部門の落ち込みが大きい」（その他の小売）、「消費者の需要が減ったため業況が悪化した」（百貨店）との声が寄せられている。

【サービス業】からは、「製造業の設備投資関連の受注が若干増えた」（ソフトウェア）との声がある一方、「仕入れ価格の上昇により採算が悪化している」（食堂・レストラン）、「ますます不況感を感じる」（理容）、「夏休みと秋の観光シーズンの端境期で来店客者が少なかった」（旅館）との声も寄せられている。

売上面では、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が2.4ポイント拡大して27.5となり、2カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は建設、卸売で縮小したものの、他の3業種で拡大した。

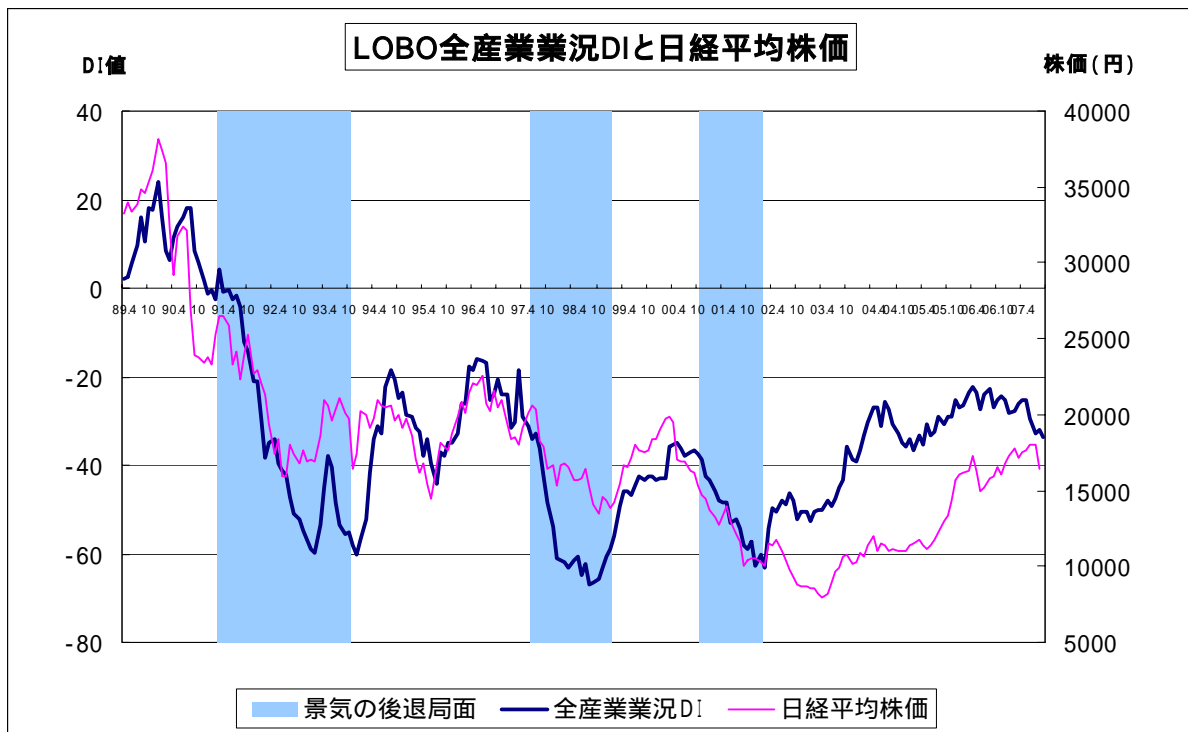
採算面では、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が0.6ポイント拡大して30.9となり、2カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は卸売で縮小したものの、他の4業種で拡大した。

資金繰り面では、全産業合計の資金繰りDIは、悪化超感が0.2ポイント強まって19.7となり、2カ月ぶりに強まった。産業別にみると、DI値の悪化超感卸売、小売で縮小したものの、他の3業種で強まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価D Iは、上昇超感が1.7ポイント強まって34.7となり、7カ月連続で強まった。産業別にみると、D I値の上昇超感はずべての業種で強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員D Iは、過剰超感が0.4ポイント弱まって0.9となり、2カ月連続で弱まった。産業別にみると、D I値は製造で過剰超感に転じ、サービスで不足超感が弱まったものの、建設、卸売で過剰超感が弱まり、小売で不足超感が強まった。

向こう3カ月(10月~12月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I(今月比ベース)が27.1と、昨年同時期の先行き見通し(21.2)に比べて悪化している。



【業況についての判断】

9月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 32.0 ）よりマイナス幅が1.6ポイント拡大して 33.6 となり、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

産業別にみると、卸売でマイナス幅が縮小したものの、他の4業種で拡大した。

向こう3カ月（10月～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が 27.1 と、昨年同時期の先行き見通し（ 21.2 ）に比べて悪化している。

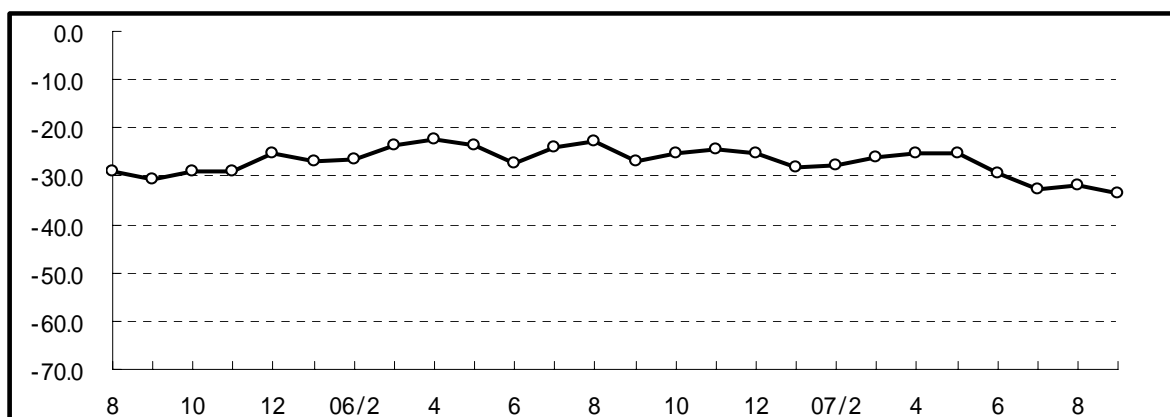
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、卸売、サービスでマイナス幅が縮小しているものの、他の3業種で拡大している。

業況DI（前年同月比）の推移

	19年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	25.3	25.1	29.5	32.8	32.0	33.6	27.1 ( 21.2)
建設	36.8	40.9	46.0	43.5	44.3	45.4	45.2 ( 36.6)
製造	20.6	21.3	23.4	26.3	23.5	27.5	23.0 ( 14.3)
卸売	38.2	27.8	39.4	42.6	48.4	41.1	25.2 ( 28.7)
小売	19.8	22.3	26.5	31.4	31.1	33.8	27.2 ( 15.8)
サービス	23.9	20.9	24.5	30.8	27.9	29.1	20.0 ( 21.8)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI  
（ ）内は昨年9月の先行き見通しDI < 以下同じ >

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が2.4ポイント拡大して27.5となり、2カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、卸売で縮小したものの、他の3業種で拡大した。

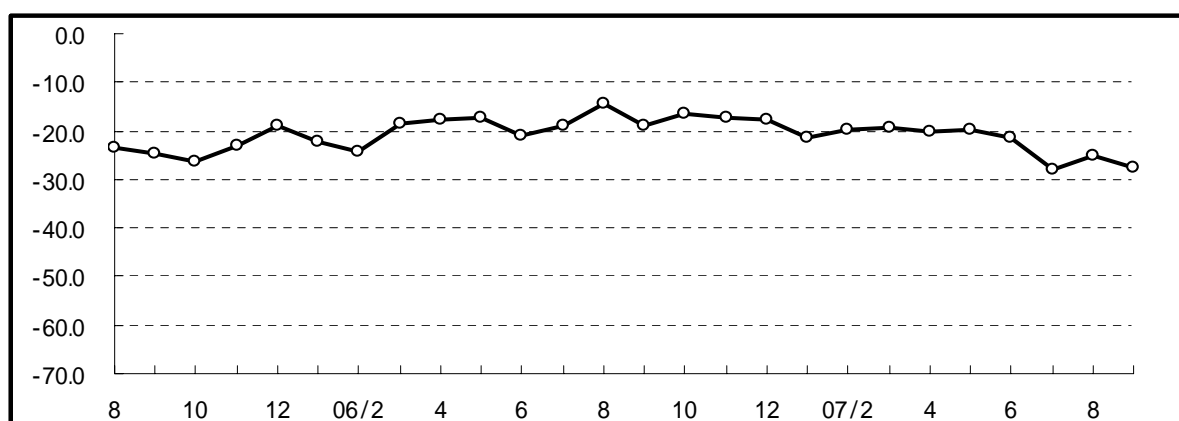
向こう3カ月（10月～12月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）が18.8と、昨年同時期の先行き見通し（12.0）に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	19年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	20.3	19.9	21.4	28.2	25.1	27.5	18.8 (12.0)
建設	34.8	37.8	37.9	34.3	37.9	37.5	40.0 (26.8)
製造	9.3	9.1	10.7	20.1	12.1	16.1	11.1 (5.8)
卸売	36.3	22.8	30.6	35.2	43.2	39.9	15.8 (14.0)
小売	18.5	20.0	19.7	31.2	27.7	30.8	19.9 (8.5)
サービス	18.1	18.4	20.3	26.5	20.6	23.8	12.9 (11.9)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が0.6ポイント拡大して30.9となり、2カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は卸売で縮小したものの、他の4業種で拡大した。

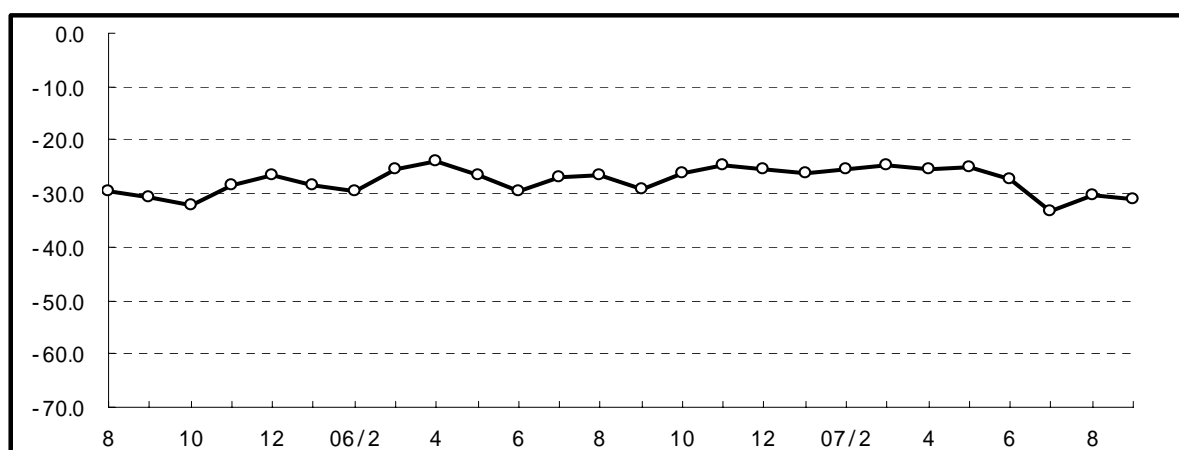
向こう3カ月(10月～12月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が25.0と、昨年同時期の先行き見通し(22.0)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、卸売、サービスでマイナス幅が縮小しているものの、他の3業種で拡大している。

採算D I(前年同月比)の推移

	19年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	25.6	25.2	27.5	33.2	30.3	30.9	25.0 (22.0)
建設	41.2	45.2	44.3	45.7	40.2	43.8	40.6 (38.7)
製造	24.1	24.9	28.6	34.1	28.5	30.7	24.9 (19.8)
卸売	32.5	24.1	26.3	33.3	39.1	29.4	15.8 (17.2)
小売	19.6	17.8	20.9	27.1	27.3	27.6	23.6 (13.8)
サービス	21.2	22.0	23.7	31.3	25.8	27.4	20.1 (25.1)

《採算D I(全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	19年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	18.3	18.2	19.8	21.8	19.5	19.7	19.2 (17.1)
建設	27.5	33.6	34.3	35.5	34.6	35.1	34.1 (29.6)
製造	13.2	14.9	16.8	21.3	16.0	18.3	16.9 (14.9)
卸売	20.4	10.1	18.6	19.7	22.3	15.2	15.1 (12.1)
小売	16.0	15.7	16.8	18.1	18.0	17.8	18.0 (14.7)
サービス	19.4	16.8	16.1	17.1	12.6	13.7	14.5 (15.7)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が2カ月ぶりに強まった。産業別にみると、卸売、小売で悪化超感が弱まる一方、他の3業種で強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が強まる見通し。産業別にみると、サービスで悪化超感が弱まる一方、他の4業種で強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	19年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全産業	25.6	28.4	30.1	32.4	33.0	34.7	30.6 (25.9)
建設	39.9	40.7	41.5	43.3	43.1	43.6	39.0 (31.8)
製造	41.5	49.4	47.3	51.2	50.0	51.3	38.9 (38.8)
卸売	27.6	19.1	26.3	27.8	31.6	33.6	27.8 (26.8)
小売	9.4	14.5	15.5	17.6	18.1	22.3	23.2 (16.7)
サービス	18.0	19.3	23.5	25.1	26.4	27.1	26.5 (19.8)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が7カ月連続で強まった。産業別にみると、すべての業種で上昇超感が強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が強まる見通し。産業別にみると、すべての業種で上昇超感が強まる見通し。

従業員 D I ( 前年同月比 ) の推移

	19年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月
全産業	0.6	0.2	0.2	2.3	1.3	0.9	2.1 ( 3.5)
建設	14.1	17.0	17.9	16.6	16.7	13.6	12.1 ( 15.7)
製造	0.2	1.4	2.0	1.7	0.5	0.5	6.1 ( 5.8)
卸売	3.8	1.2	3.1	4.3	7.7	7.2	9.3 ( 6.6)
小売	10.1	6.4	6.0	3.0	4.2	6.6	7.0 (1.2)
サービス	1.4	3.4	2.7	0.5	2.9	0.5	0.9 (3.2)

D I = ( 不足の回答割合 ) - ( 過剰の回答割合 )

【前年同月比 D I】全産業合計は過剰超感が2カ月連続で弱まった。産業別にみると、製造で過剰超感に転じ、サービスで不足超感が弱まったものの、建設、卸売で過剰超感が弱まり、小売で不足超感が強まった。

【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が弱まる見通し。産業別にみると、製造、卸売で過剰超感が強まり、サービスで不足超感が弱まる一方、建設で過剰超感が弱まり、小売で不足超感が強まる見通し。



## 【平成19年9月の景気キーワード】

### 悪化への懸念

各業種から、業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「公共工事は発注件数の前年割れが続き、民間工事も動きが鈍い。収益状況は依然として厳しい」(米子・一般工事)、「業況は4月、5月頃から悪化したまま変化がない。先行きの見通しが立たない状態である」(加茂・金属加工機械製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「在庫が増加傾向にある。市況全体が悪化している」(浦安・鉱物金属材料卸売)、「売上が悪化した。市内には元気のある小売業はない」(藤枝・その他の小売)、「大企業を中心に業況は好転しているとされるが、地方都市の中小零細業者は相変わらず苦しい」(豊岡・理容)といったコメントが寄せられている。

### 仕入コスト上昇

また、各業種から、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「原油高および木材高の影響を受け、仕入単価が上昇している。業界は依然として厳しい」(岩見沢・建築工事)、「原油価格の高騰により、ガソリン、紙、印刷資材の価格も値上がりしているが、販売価格への転嫁が難しい状況にある」(臼杵・印刷)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「鮮魚の仕入価格が上昇しており、先行きに不安を感じる」(境港・農畜産水産物卸売)、「ガソリン価格の高騰により仕入コストが増加。明るい兆しがまったく見えない」(亀田・商店街)、「仕入コストの上昇が収益を圧迫している」(豊橋・自動車整備)といったコメントが寄せられている。

### 残暑の影響

残暑の好影響を挙げる声が聞かれる一方、残暑の悪影響を訴える声も寄せられている。小売、サービスからは、「残暑の影響で売上は好調だった」(福島・商店街)、「残暑の影響で来店客数が多かった。来月も好天を期待している」(赤穂・喫茶店)との声が寄せられている。他方、「8月中旬から秋物商品への切り替えを行っているが、9月に入っても暑い日が多く、荷動きは低調となっている」(静岡・商店街)、「9月に入っても残暑が厳しく、全館的に秋物商品の動きが冴えない」(水戸・百貨店)、「9月に入っても30度以上の日が続く、秋物商品が不振」(豊川・百貨店)、「異常なまでの残暑が客足を遠のけているのではないかと思えるほど売上に響いている」(会津喜多方・理容)といったコメントも寄せられている。

### 【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
19年	7月	悪化への懸念	仕入コストの上昇	天災・天候不順による影響
	8月	悪化への懸念	仕入コストの上昇	猛暑の影響
	9月	悪化への懸念	仕入コストの上昇	残暑の影響

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

本文中の( )内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは2カ月連続、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大、売上D Iは2カ月ぶりに縮小した。「前年に比べてコストが増加しており、採算は厳しい状況になってきている」(一般工事)「公共工事の受注競争が激化している。売上の減少に伴い、利益率も悪化している」(一般工事)「公共事業への依存度が高い本県の建設業界は、将来的に見ても明るい兆しが見えない」(一般工事)「市内の住宅着工件数が減少傾向にある」(建築工事)「公共工事、民間工事ともに減少し、業況改善の見込みが立たない」(建築工事)「原油価格の高騰により先行きが懸念される」(電気工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況・売上・採算D Iのいずれも2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「紙の仕入価格が上昇しているものの、販売価格への転嫁が困難なため、コストダウンが課題となっている」(印刷)「秋物商品の受注が総じて低調である。原油価格の高騰に危惧している」(ゴムプラスチック履物製造)「依然として業況は回復しない。従業員も過剰状態。原油や鋼材の価格も上昇傾向にあり、採算面でも厳しい状況が続いている」(金属加工機械製造)「金利負担が増加した」(工業用ゴム製品)「原材料価格の値上がりが続く。販売価格に転嫁せざるを得ない」(その他のプラスチック製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・売上・採算D Iのいずれも4カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「イベントを実施するなど集客に力を入れているが、昨年以上の売上増は望めない。日曜日に閉店している店舗が目立ってきている」(各種商品卸売)「残暑の影響により冷菓や飲料水の売上が増加したが、仕入れ単価やガソリン価格が上昇し、業況は厳しい」(食料・飲料卸売)「鮮魚の売上が伸びない。また、調味料や練物製品などの仕入単価が上昇している。年内は厳しい状況が続くだろう」(農畜産水産物卸売)「台風のシーズンが心配である。また、中国産の農作物が売れない」(農畜産水産物卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況・売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは4カ月連続でマイナス幅が拡大した。「残暑の影響で来店客数が減少した」(商店街)「来街者が少なく業況は非常に厳しい」(商店街)「大型ドラッグストアの出店が決まり、先行きに不安を感じる」(商店街)「原油価格の高騰による仕入コストの増加、少子化による採用難など、小売業界を取り巻く経営環境は厳しい。競合店との競争も激化している」(百貨店)「残暑が厳しく秋物商品の動きが鈍い。紳士・婦人用衣料品が苦戦している。呉服・美術品の売上も伸び悩み、消費者単価も前年を下回っている」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況・売上・採算D Iのいずれも2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「原油価格の高騰による軽油価格の値上がり、大手事業者の営業区域拡大による競争激化、環境・安全対策の強化など、業界を取り巻く経営環境は依然として厳しい」(運送)「食用油、マヨネーズ、豚肉、牛肉の価格上昇が止まらない。本当に参っている」(食堂・レストラン)「原油価格の高騰によるコストの増加分を価格に転嫁することができず、経営はかなり厳しい」(洗濯)「前年と比較して業況は落ち込んでいる。秋の観光シーズンに期待している」(旅館)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北海道、四国、九州でマイナス幅が縮小したものの、他の6ブロックで拡大した。なお、全ブロック合計は2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

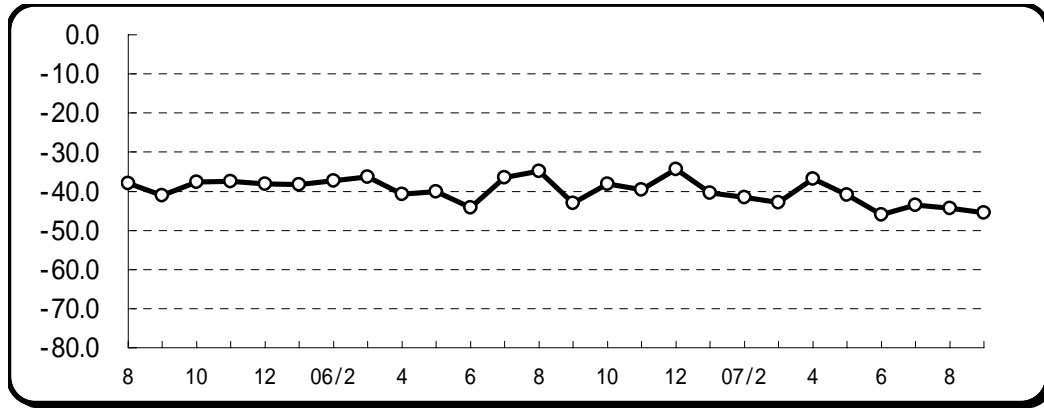
ブロック別の向こう3カ月(10月~12月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、近畿で改善しているものの、他の8ブロックで悪化している。なお、全ブロック合計は悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

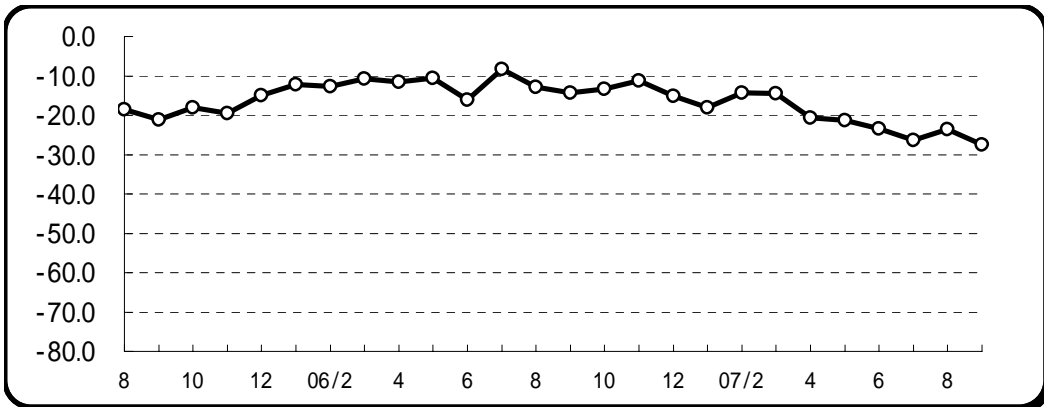
	19年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10~12月
全 国	25.3	25.1	29.5	32.8	32.0	33.6	27.1 ( 21.2)
北 海 道	27.4	33.1	33.3	36.4	37.1	35.5	32.7 ( 31.1)
東 北	27.0	28.3	32.1	36.6	31.7	34.8	35.6 ( 28.4)
北陸信越	27.0	27.0	33.9	39.2	30.3	34.9	26.5 ( 11.1)
関 東	20.2	18.5	24.1	29.3	27.8	30.3	23.4 ( 19.7)
東 海	23.5	28.5	24.4	28.6	30.2	32.9	28.6 ( 11.9)
近 畿	24.2	25.1	26.9	31.1	31.4	32.2	25.2 ( 25.8)
中 国	37.2	30.3	35.7	36.6	39.8	44.0	33.1 ( 27.4)
四 国	32.3	29.9	41.5	33.9	43.1	42.3	28.5 ( 23.4)
九 州	22.2	21.3	28.0	32.0	29.5	26.1	21.7 ( 18.8)

# 業況D I（前年同月比）の推移（全国）

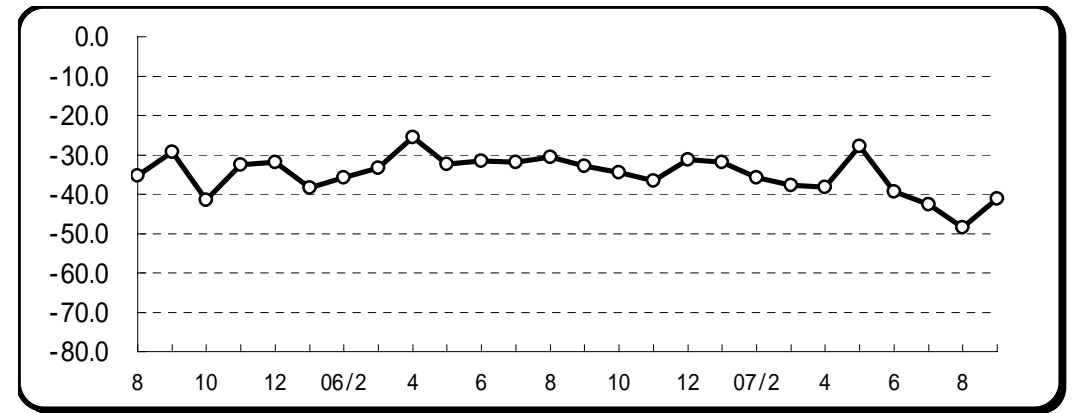
## 建設業



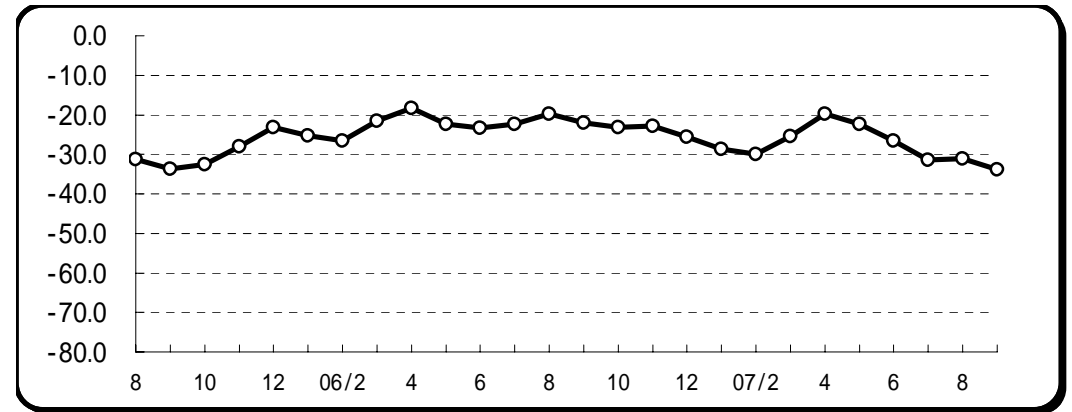
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

